易誤、餳徒郎切、當从易、今混爲一字、非、字彙、既有餳字、从徐盈反、復于餳字作徐盈徒郎二切、尚未了然於字書之誤也、

〔新撰字鏡米〕糖榿饐溏四形同、徒郎反、平、並阿米、

〔本草和名十九米穀〕粘糖膠粘濕粘、如厚蜜者、和名阿米

〔倭名類聚抄十六酥蜜〕飴　說文云飴音怡、和名阿女、米蘖爲之、

〔箋注倭名類聚抄四酥蜜〕按今俗作飴、用麥蘖、不用米蘖、○中略釋名、餳洋也、煮米消爛洋々然也、飴小弱於餳、形怡々然也、依之餳謂今俗呼水飴之厚者、飴水飴之薄者、不與說文注餳云飴和饐者同、李時珍曰、饎之清者曰飴、稠者曰餳、引陳嘉謨曰、乾枯者名餳、亦不與釋名同也、關東俗呼水飴者、關西俗謂之汁飴、

〔伊呂波字類抄安飲食〕飴亦作粘　餳　粘糖　膠粘　濕如淳蜜者　飲　饎已上アメ、亦作糖、

〔下學集下飲食〕飴アメ

〔撮壤集下飲食〕糖　飴アメ同

〔書言字考節用集六服食〕膠牙飴クロアメ本草出乃　溼餳同上　餳活法、米蘖　饎同餳之硬者、　飴同餳之軟者、　餔シルアメ本草　餱同

楊氏方言　滑飴同

〔日本釋名下飲食〕飴アメ　あめはあま也、あまき意、めとまと通す、

〔倭訓栞前編二〕あめ　飴餳をいふは甘き義也、餳はしるあめ也、江戸にて水あめといふ、新撰字鏡に饐もよめり、八斛麥あり、餳に作るによろし、飴をねぶらすといふ俗語は、後漢書に含餳弄兒孫と見え、大學衍義に、啗以甘言而陰陷之といへる意なりといへり、○中略豆汁を俗にあめといふ餳に似たる也、

〔物類稱呼四衣食〕滑飴　しるあめ　畿內にてしるあめといふ、西國にてぎやうせんと云、關東にて水あめ、又ぎやうせんと云、水あめはぎやうせんよりもゆるし、又ぎやうせんは濃煎なるべしや、